

令和 5 年 6 月 19 日現在

機関番号：10101

研究種目：基盤研究(B) (一般)

研究期間：2019～2021

課題番号：19H04377

研究課題名(和文) コンテンツツーリズムにおける「戦争」の消費と歴史理解に関する国際比較研究

研究課題名(英文) International Comparative Study on the Consumption and Historical Understanding of "War" in Content Tourism

研究代表者

山村 高淑 (Yamamura, Takayoshi)

北海道大学・観光学高等研究センター・教授

研究者番号：60351376

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 13,400,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では、国内外の戦争関連コンテンツ(メディア作品)を対象に、そうしたコンテンツが動機となったツーリズムが、どのような対話あるいは衝突(コンフリクト)を誘発するのか分析を行った。特に国内事例については重点的な現地調査を行い、歴史解釈の自由度については幕末から日露戦争の間で時代的に大きな相違が見られること、こうした違いは当事者性を持つ解釈共同体の存在が重要な要因となること、ツーリズムの現場におけるコンフリクトを建設的対話に移行するためには複数の解釈共同体間で共有可能なコンテンツの存在が重要な鍵となること、などを明らかにした。これら一連の成果は英文学術書(オープンアクセス)として取りまとめた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究は、コンテンツツーリズム研究における戦争コンテンツに関する初の体系的研究の試みである点、従来異なる領域において行われてきた関連テーマを、コンテンツの製作、越境流通・消費と、歴史理解・他者理解という観点から、観光学の新たな領域として統合化していく試みである点において学術的意義を持つ。また、戦争記憶や歴史認識を巡り様々な懸案を抱える東アジアに着目し、人口的にも圧倒的多数を占めつつある戦争の実体験の無い若い世代におけるコンテンツの消費と歴史理解を研究対象とした点は、他に類例がないだけでなく、日本のコンテンツ関連政策、文化外交政策にも実践的知見を還元するものであり、社会的意義を持つ。

研究成果の概要(英文)：In this study, we analyzed tourism that is motivated by war-related content (media), both domestic and international, to examine the dialogues or conflicts that this type of content triggers. We placed particular emphasis on conducting on-site investigations for domestic cases, and found significant temporal differences in historical interpretation, specifically between the late Edo period and the Russo-Japanese War. We identified interpretive communities' subjective interpretation of war experiences as a crucial factor that contributes to these differences. Furthermore, the presence of shareable narratives among multiple interpretive communities play a vital role in transitioning conflict in tourism settings into constructive dialogue. These findings have been compiled into an English-language academic book (open access).

研究分野：観光学

キーワード：コンテンツツーリズム 戦争 歴史理解 コンテンツ 国際比較 ツーリズム 戦 物語

1. 研究開始当初の背景

申請者らがこうした問いを設定するに至った背景は大きく以下の四点である。

(1) 第一に、関連する社会学・歴史学研究において、コンテンツツールの視座が欠如している点である。人類史における数々の戦争は、歴史として記録されるのみならず、文学、TVドラマ、映画、アニメ等、様々なポピュラーカルチャー作品にインスピレーションを与え、そうした作品のモチーフになり続けてきた。また戦争は具体的な空間領域を伴って発生する現象であり、これら作品も、実在する具体的な場と結びつき、語られることが多い。こうした戦争に関するポピュラーカルチャー作品と具体的な場との関係性については、これまで社会学や歴史学の領域を中心に、「記憶の場」(Winter 1995)や「記憶の領域」(Nora 1996)といった概念を援用しつつ、「戦争」の表象と「戦争記憶」の継承、内在するポリティクスを中核的な論点として研究が行われてきた(Seaton 2007, Shin & Sneider 2016など)。これら先行研究は、マクロなメディア分析やコンテンツそのものの分析を主たる方法としているという特徴を持つ。したがって、コンテンツツールの方法論、すなわちマルチユースされるコンテンツの生産・流通・消費実態を通して、旅行者における一連の観光実践プロセスを論じるという方法論が用いられることはなかった。つまり、こうした社会学・歴史学分野においては、コンテンツをきっかけとした観光実践が歴史理解や他者理解に如何に貢献しうるのかについて、目下有用な実践的知見が得られていないのが実情である。

(2) 第二に、コンテンツツール研究において、戦争関連コンテンツを取り扱ったものがほとんどない点である。戦争関連コンテンツの多くは、具体的場所のイメージや物語性と結びつきながら、人々の旅行動機を形成する。その結果、多くの旅行者がコンテンツツールを実践している。こうした中、どのような条件下で戦争のエンターテインメント化が起こるのか、すなわち、戦争のコンテンツ化とそれに伴う観光アトラクション化が起こるのか、という点については、本来コンテンツツールが研究対象とすべき領域である。しかし当該分野において、戦争関連コンテンツはこれまで積極的に取り上げられてこなかった。というのも、日本におけるコンテンツツール研究は、2005年に国土交通省・経済産業省・文化庁が共同でまとめた『映像等コンテンツの制作・活用による地域振興のあり方に関する調査報告書』において「コンテンツツール」という概念がはじめて定義されたことに端を発し、政策支援的性格を持った研究として発展してきたためである。つまり、地域振興に貢献し得るポジティブなイメージや物語性を付与するコンテンツが対象として中心的に扱われてきたのである(例えば、増淵 2010、山村 2011、岡本 2013、大谷ほか 2018など)。さらに2013年に、観光庁・日本政府観光局(JNTO)・経済産業省・JETROが『訪日外国人増加に向けた共同行動計画』の中で「クール・ジャパンコンテンツから想起される観光地(総本山、聖地)への訪日」客誘致を目標に掲げて以降は、訪日外国人の急増現象と相まって、戦争関連コンテンツは対外的にデリケートな内容を含むため、現場においても研究においても暗黙のうちに敬遠されているのが実情である。このように戦争をエンターテインメント化した作品が地域と結びつき、ツールの文脈で消費される際に発生する諸問題については、コンテンツツール研究分野を含め、ツール研究全般においても、申請者らが先駆的に行ってきた「東アジアにおける戦争、ポピュラーカルチャー、ツール」に関する研究(Seaton 2018, Yamamura 2017, Sugawa-Shimada 2018, Jang 2018など)以外では、ほとんど注目されていない。

(3) 第三に、コンテンツツール研究とヘリテイジツール研究の接合領域に関する研究の必要性が高まっている点である。以上で述べてきたような、戦争関連コンテンツツールの実践における課題は、言い換えれば、エンターテインメント化された戦争を消費するコンテンツツールと、本来場所が有する戦争記憶、すなわち歴史文化遺産を消費するヘリテイジツールとの衝突としても捉えることが可能である。なぜなら、遺産の真正性のインタープリテーションを中核的な問いに据えるヘリテイジツールの観点からすれば、コンテンツツールの実践は、真正性のないファンタジーとしての物語世界やキャラクターが場所の持つ真正性に悪影響を与え得るものとして位置づけられるからだ。しかしこうした論点については、コンテンツツールとヘリテイジツールというふたつの研究領域が国際的にもほぼ接点を持たずに発展してきたことから、申請者らの研究(Seaton et al. 2017, Yamamura 2018)を除き、ほとんど議論がなされてこなかった。類似する論点としては、ダークツール研究において、旅行者が死や災害に関連する場所を訪れる動機形成の中核をメディアが担っているという議論(Lennon and Foley 2000など)があるが、あくまでその中核的問いはそうした場所へのまなざしが如何に形成されているかにあり、エンターテインメント化された虚構世界と現実の歴史文化遺産の相克に関する分析という視点は有していない。

(4) 第四に、特に東アジア地域を中心とした国際的研究が必要である点である。人と情報のモビ

リティが高まった現在、コンテンツは今まで以上に時差なく越境消費されるようになり、旅行者の越境移動もより活発化している。とりわけ、地理的近接性を持つと同時に、複雑な歴史問題を抱えている東アジア諸国・地域において、こうした越境移動が双方向で活発化している点は重要である。つまり、歴史認識や歴史感の異なる旅行者が、こうしたコンテンツツーリズムに越境参加する機会が大いに高まっているのである。こうした中、戦争関連コンテンツツーリズムの実践は極めて複雑化した様相を呈しつつあり、そうした実践が多様な旅行者にどのような歴史理解をもたらすのか、既存の研究枠組みでは対応できない状況となっている。とりわけ戦争の実体験を有さず、コンテンツの越境消費が旺盛な若い世代において、戦争関連コンテンツツーリズムがどのように実践され、歴史理解や他者理解につながっているのか、あるいは誤解や相互不信が助長されているのか、実態を国際的に把握することが急務である。さらにはこうした現象が先駆的に発生している欧州をはじめとした東アジア地域外の事例との比較も重要となる。

2．研究の目的

本研究の目的は以下の二点である。

(1) 第一に、戦争に関連するポピュラーカルチャー作品（戦争関連コンテンツ）の製作・流通・消費プロセスと、具体的な場所での観光実践を通じた歴史理解との関係性を、コンテンツ製作者・旅行者・地域社会の相互作用に着目することで明らかにすること。

(2) 第二に、これを踏まえて、どのような条件下で戦争がエンターテインメント化し得るのか、そしてコンテンツツーリズムの実践が戦争の実体験を有さない若い世代の歴史理解や他者理解にどのような可能性と課題を有するのか、国際的な比較・考察を行うこと。

3．研究の方法

本研究では、大きく以下の6つの研究方法を採用した。

(1) 第一に各国における戦争の歴史、関連作品・観光目的地のリスト作成である。文献・メディア調査、関係者へのヒアリングを通して、東アジア（日本、中国、韓国の三カ国を主たる対象とする）ならびに比較対象事例としての欧州（英、仏、独を主たる対象とする）について、古代から近現代に至る戦争の歴史を整理するとともに、関連コンテンツのリストアップを行った。

(2) 第二に、Longitudinal approach によって、同じ国における、時代により変化する戦争観、entertainment value を明らかにすることである。すなわち、第一の作業で作成したリストをもとにしつつ、対象各国それぞれにおいて、古代から現代に至る戦争を歴史的に俯瞰し、それらのエンターテインメント化（戦争のコンテンツ化とそれに伴う観光アトラクション化）の実態を、作品と関連観光目的地の調査によって把握し、戦争がエンターテインメント化するうえでの要件について分析を行った。

(3) 第三に、Horizontal Approach である。すなわち、第一で得られた知見をもとに、同じ戦争が異なる国でどのようにエンターテインメント化されているのかを明らかにする。例えば、日露戦争が日本、戦地となった中国、結果として植民地化につながった韓国において、どのように描かれ消費されているのか、東アジアならびに欧州から典型例を複数選び、各国におけるエンターテインメント化の実態について作品と観光目的地の比較分析を行った。

(4) 第四に、コンテンツツーリズム現象の現地分析である。こうしたコンテンツの中で、国際的なコンテンツツーリズム現象が起こっている事例を具体的に取り上げ、戦争のコンテンツ化とそれに伴う観光アトラクション化（コンテンツの製作・流通・消費、現地での観光実践）がどのように行われているのか、そして旅行者にどのような戦争イメージが形成され、戦争理解・歴史理解が促進されているのか、あるいはされていないのか、現地調査ならびに関係者へのヒアリングを通して明らかにした。

(5) 第五に、コンテンツが地域社会に与えるインパクトの分析である。特に、コンテンツにおけるフィクションがあたかも歴史的事実であったかのように「遺産化」されてしまう例や、コンテンツのイメージに依拠して空間や建造物のデザインが変容してしまう例に注目し、コンテンツが地域の語りや空間に与える影響を、ヘリテージツーリズム研究の枠組みを応用して明らかにした。

(6) 第六に、戦争に対する主体間の認識の違いに関する分析である。旅行者の戦争イメージや戦争・歴史理解と、地域側の戦争・歴史理解とインタープリテーションの間にどのような共通点・相違点があるのか、そしてどのような軋轢や摩擦が生じているのか、旅行者ならびに、地域社会や行政、歴史遺産保護・管理関係者へのヒアリングを通して明らかにした。

4．研究成果

本研究の補助期間中における主な研究成果は以下の通りである。なお、本研究は当初、広く国内外における実地調査を必須項目として計画されたものであったが、2019年度後半に発生した新型コロナウイルスの世界的流行に伴い、止むを得ず当初計画を大幅に変更し、国内事例の実地調査を重点的に実施し、その結果を国際的視座から分析する方針とした。また、同様の事由により当初3年間の計画であった研究実施期間を、1年延長し4年間(2019~2022)として実施した。

(1) 2019年度、2020年度においては、以下、大きく3つの角度から基礎的な情報・資料収集、それらの分析を行った。

すなわち、第一に文献並びにコンテンツの調査を通じた戦争関連コンテンツのリストアップ、分類である。日、中、韓、英、仏、独の6か国を主たる対象とし、古代から近現代に至る戦争の歴史を整理するとともに、関連コンテンツのリスト化を行った。

第二に、国内実地調査である。先に作成したリストの中から戦争のコンテンツ化が顕著に行われている事例を複数取り上げ、実地調査を通してコンテンツが観光地化に及ぼす影響、コンテンツツーリズムを通じた歴史理解の実態、等について把握を行った。具体的には、函館市、東京都日野市、岐阜県、舞鶴市、金沢市、広島県、広島市、呉市、福山市、山口県などを対象に実地調査を行っている。

第三に、海外実地調査である。同様に作成リストから顕著な事例として、中国における三国志関連遺跡・遺産、台湾における戦争関連遺跡を取り上げ、コンテンツツーリズムの展開実態について実地調査を行った。

以上3つの角度から実施した調査・分析を踏まえ、総合的なデータベースの作成を行った。

(2) 2021年度においては、新型コロナウイルスの感染拡大防止に十分配慮しつつ国内調査を進め、北海道、福井県、兵庫県、徳島県、広島県、宮崎県等の現地調査を実施した。

そのうえで、これまでの現地調査ならびに文献調査の結果を、英文学術書 *War as Entertainment and Contents Tourism in Japan* (Yamamura & Seaton 2022) として総合的にとりまとめ Routledge 社より出版した。なお出版形式は、オープンアクセスの電子書籍ならびにハードカバー書籍のふたつの形をとっている。

同書では、戦争関連コンテンツツーリズムは、一連の異文化対話プロセスを通して、解釈共同体間でコンフリクトが発生しやすいツーリズム形態であること、そうしたコンフリクトは、SNSでの炎上といった言説レベルの衝突から日本商品不買運動といった具体的示威行動まで幅広い形態があること、そして対象を解釈するに当たり少なくとも3つの解釈の規範(戦争記憶に基づく主観的解釈の規範、遺産価値に基づく客観的解釈の規範、メディアコンテンツに基づくフィクション的・娯乐的解釈の規範)を持つ共同体が存在することを指摘した。そのうえで、こうしたコンフリクトを把握するための概念モデルである 解釈共同体モデル を提示し、これら解釈共同体間の対立が、コンフリクト発生 of 構造的背景になっている点を明らかにした。

また、日本史に関連した戦争関連コンテンツを、いつの時代の出来事をベースに描いたものかに着目して分類することで、幕末と日露戦争の間にコンテンツ化における自由度の境界線があること、この現象には当事者性を持つ解釈共同体の存在があること、を示した。

さらに、ツーリズムの現場で発生するコンフリクトを建設的な対話に移行するためには解釈共同体間での多声性(multi-vocality)が担保されると同時に、共有可能なコンテンツの存在が重要な鍵となることを実証的に示し、これを解釈共同体が共有可能な物語世界の構築モデル、すなわち usable narrative world 形成モデル として提示した。その上で、コンテンツツーリズム以外のツーリズム分野でも、多声性が異文化間コンフリクトを生んでいる事例が多く見られることから、同モデルの精緻化、一般化が必要であることを指摘した。

なお、同書の具体的章立ては以下の通りである。第1章で戦争関連コンテンツツーリズム(war-related contents tourism)を分析する際の理論的枠組みを提示するとともに、続く2章から23章で、日本の歴史上の戦争を題材としたコンテンツがどのようなツーリズムを生みだし、ツーリズムの現場においてどのようなコンフリクトが発生しているのかについて、各地の具体的な事例とともに分析を行った。そのうえで、最終章において、戦争関連コンテンツツーリズムの分類を行い、ヘリテージツーリズム等のツーリズム様式との関連性について論じるとともに、戦争関連コンテンツツーリズムの抱える重要な課題のひとつが、コンテンツそのもの、ならびにツーリズムの現場における多声性の担保と共有可能な物語世界の構築であることを示した。

(3) 2022年度は、当該助成期間の最終年度として、研究の最終とりまとめを行うため、大きく以下三点の取組を実施した。すなわち第一に、これまでコロナ禍により十分に実施できていなかった現地調査を追加的に行った。第二に、これまでの研究成果を広く教育・社会に還元することを目的とした研究成果公開ウェブサイトの整備・運用を行った。そして第三に、4年間の総括として、これまでの研究で得られた論点ならびに今後の課題を整理し、国際会議におけるパネルとして発表した。

具体的には、第一点目の現地調査については、札幌市、洞爺湖町、函館市、横須賀市、湯河原町、福岡市、長崎市、対馬市、壱岐市、松浦市において、戦争関連コンテンツとツーリズム実態に関する現地調査を実施した。

二点目の研究成果公開ウェブサイトの整備については、北海道大学大学院水産科学研究院バ

ランスドオーシャン運用部との協力体制を強化し、同組織が開発したオンライン教材サイト上に本研究課題専用の成果公開ページを開設した。そのうえで、オープンアクセス論文や講義動画、参考資料リンクなどを一括して掲載し、研究代表者ならびに分担者の担当する授業等での活用を開始した。なお、この成果公開ページは、常時アップデートが可能な様式として開発しており、補助期間終了後も発展的に成果物や関連教材をアップロードし運用を継続していく予定である。

三点目の国際会議発表については、2022年11月に米国人類学会(American Anthropological Association)において、研究代表者がorganizer、分担者・協力者が発表者となり、Multi-Vocality of Contents Tourism: Between Conflict and Dialogue, Nationalism and Cosmopolitanismと題したパネル討論を行った。同パネルにおいては、平和学や紛争変革論の先行研究整理を行い、対話論が極めて重要な位置付けにあることを明らかにするとともに、本研究の総括として、これまで得られた知見を発展的に展開していくために、こうした対話論をツーリズム研究への応用することの重要性を指摘した。その上で、コンテンツツーリズムの実践が、戦争の実体験を有さない若い世代の歴史理解や他者理解の仕組みとして作用するための枠組みとして、多声性を許容し、解釈共同体間での相互理解が促進するための創造的対話を位置付け、こうした創造的対話が、とりわけ東アジア地域において、如何なる要件の下に成立しうるのか、国際的な事例比較から実証的に明らかにすることの必要性を論じた。

このようにして得られた今後の研究課題は、2023年度より新たな研究課題として発展的に展開していく予定である。

参考・引用文献

- Jang, Kyungjae. Between Soft Power and Propaganda: The Korean Military Drama Descendants of the Sun. *Journal of War & Culture Studies* 12 (1), 2018, pp.24-36.
- 観光庁・日本政府観光局(JNTO)・経済産業省・JETRO. 『訪日外国人増加に向けた共同行動計画』, 2013.
- 国土交通省総合政策局観光地域振興課・経済産業省商務情報政策局文化情報関連産業課・文化庁文化部芸術文化課. 『映像等コンテンツの制作・活用による地域振興のあり方に関する調査報告書』, 2005.
- Lennon, J. John. and Foley, Malcolm. *Dark Tourism*. London: Continuum, 2000.
- 増淵敏之. 『物語を旅するひとびと：コンテンツ・ツーリズムとは何か』, 東京：彩流社, 2010.
- Nora, Pierre. From Lieux de mémoire to Realism of Memory. In L. D. Kritzman ed. *Realms of Memory: Rethinking the French Past, Volume 3: Symbols*. New York: New York University Press, 1996, pp. 609-637.
- 岡本健. 『n次創作観光 アニメ聖地巡礼/コンテンツツーリズム/観光社会学の可能性』, 江別: NPO法人北海道冒険芸術出版, 2013.
- 大谷尚之・松本淳・山村高淑. 『コンテンツが拓く地域の可能性：コンテンツ製作者・地域社会・ファンの三方良しをかなえるアニメ聖地巡礼』, 東京: 同文館出版, 2018.
- Seaton, Philip. *Japan's contested war memories: the 'memory rifts' in historical consciousness of World War II*. London: Routledge, 2007.
- Seaton, Philip. War, Popular Culture, and Contents Tourism in East Asia. *Journal of War & Culture Studies* 12 (1), 2018, pp. 1-7.
- Seaton, Philip., Yamamura, Takayoshi., Sugawa-Shimada, Akiko. And Jang, Kyungjae. *Contents Tourism in Japan: Pilgrimages to Sacred Sites of Popular Culture*. New York: Cambria Press.
- Shin, Gi-wook. and Sneider, Daniel. *Divergent Memories: Opinion Leaders and the Asia-Pacific War*. Redwood City, CA: Stanford University Press, 2016.
- Sugawa-Shimada, Akiko. Playing with Militarism in/with Arpeggio and Kantai Collection: Effects of shōjo Images in War-related Contents Tourism in Japan. *Journal of War & Culture Studies* 12 (1), 2018, pp.53-66.
- Winter, Jay. *Sites of Memory, Sites of Mourning: The Great War in European Cultural History*. Cambridge: Cambridge University Press, 1995.
- 山村高淑. 『アニメ・マンガで地域振興』, 東京: 東京法令出版, 2011.
- Yamamura, Takayoshi. Cooperation Between Anime Producers and the Japan Self-Defense Force: Creating Fantasy and/or Propaganda? *Journal of war and culture studies* 12 (1), 2017, pp.8-23.
- Yamamura, Takayoshi. Pop culture contents and historical heritage: The case of heritage revitalization through 'contents tourism' in Shiroishi city. *Contemporary Japan* 30 (2), 2018, pp.144-163.
- Yamamura, Takayoshi. and Seaton, Philip. *War as Entertainment and Contents Tourism in Japan*. London: Routledge, 2022.

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計30件（うち査読付論文 28件 / うち国際共著 7件 / うちオープンアクセス 27件）

1. 著者名 山村高淑	4. 巻 1
2. 論文標題 コンテンツツーリズムの理論的枠組み構築に向けた若干の試論	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 コンテンツツーリズムと文化遺産	6. 最初と最後の頁 45-78
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Yamamura, Takayoshi and Graburn, Nelson	4. 巻 1
2. 論文標題 Contents Tourism	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Encyclopedia of Tourism Management and Marketing	6. 最初と最後の頁 616-619
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 山村高淑	4. 巻 1
2. 論文標題 異文化間コンフリクトを乗り越えるための創造的対話についての試論	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 メタ観光推進機構2022年度会報誌	6. 最初と最後の頁 22-29
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 Seaton, Philip and Yamamura, Takayoshi	4. 巻 1
2. 論文標題 Theorizing war-related contents tourism	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 War as Entertainment and Contents Tourism in Japan	6. 最初と最後の頁 1-18
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.4324/9781003239970	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 該当する

1. 著者名 Yamamura, Takayoshi	4. 巻 1
2. 論文標題 The narrative worlds of ancient wars: Travelling heroes in Kojiki	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 War as Entertainment and Contents Tourism in Japan	6. 最初と最後の頁 21-26
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.4324/9781003239970	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Jang, Kyungjae	4. 巻 1
2. 論文標題 The Mongol invasions of Japan and Tsushima tourism	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 War as Entertainment and Contents Tourism in Japan	6. 最初と最後の頁 27-31
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.4324/9781003239970	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Aleksandra Jaworowicz-Zimny	4. 巻 1
2. 論文標題 Sekiro: Shadows Die Twice and contents tourism in Aizu-Wakamatsu	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 War as Entertainment and Contents Tourism in Japan	6. 最初と最後の頁 32-36
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.4324/9781003239970	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Sugawa-Shimada, Akiko	4. 巻 1
2. 論文標題 History girls and women's war-related contents tourism	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 War as Entertainment and Contents Tourism in Japan	6. 最初と最後の頁 37-41
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.4324/9781003239970	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Jang, Kyungjae	4. 巻 1
2. 論文標題 Satsuma's invasion of the Ryukyu Kingdom in 1609 and Okinawa tourism	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 War as Entertainment and Contents Tourism in Japan	6. 最初と最後の頁 45-49
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.4324/9781003239970	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Yamamura, Takayoshi	4. 巻 1
2. 論文標題 War-related narratives and contents tourism during the 'Tokugawa peace'	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 War as Entertainment and Contents Tourism in Japan	6. 最初と最後の頁 50-55
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.4324/9781003239970	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Sugawa-Shimada, Akiko	4. 巻 1
2. 論文標題 Token Ranbu and samurai swords as tourist attractions	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 War as Entertainment and Contents Tourism in Japan	6. 最初と最後の頁 56-60
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.4324/9781003239970	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Fujiki, Yosuke and Nakai, Hitoshi	4. 巻 1
2. 論文標題 Castles and castle towns in Japanese tourism	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 War as Entertainment and Contents Tourism in Japan	6. 最初と最後の頁 61-65
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.4324/9781003239970	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Seaton, Philip	4. 巻 1
2. 論文標題 Festivals of war	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 War as Entertainment and Contents Tourism in Japan	6. 最初と最後の頁 66-70
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.4324/9781003239970	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Koarai, Ryo	4. 巻 1
2. 論文標題 Hokkaido as imperial acquisition and the Ainu in popular culture and tourism	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 War as Entertainment and Contents Tourism in Japan	6. 最初と最後の頁 73-77
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.4324/9781003239970	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Seaton, Philip	4. 巻 1
2. 論文標題 The Russo-Japanese War and (contents) tourism	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 War as Entertainment and Contents Tourism in Japan	6. 最初と最後の頁 78-82
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.4324/9781003239970	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Jang, Kyungjae	4. 巻 1
2. 論文標題 Tourism relating to the new culture introduced by First World War German POWs	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 War as Entertainment and Contents Tourism in Japan	6. 最初と最後の頁 83-87
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.4324/9781003239970	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Sugawa-Shimada, Akiko	4. 巻 1
2. 論文標題 Theatre (contents) tourism and war as a backdrop to romance	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 War as Entertainment and Contents Tourism in Japan	6. 最初と最後の頁 88-92
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.4324/9781003239970	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Seaton, Philip and Yamamura, Takayoshi	4. 巻 1
2. 論文標題 Yasukuni Shrine's Yushukan museum as a site of contents tourism	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 War as Entertainment and Contents Tourism in Japan	6. 最初と最後の頁 95-99
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.4324/9781003239970	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 van der Does, Luli	4. 巻 1
2. 論文標題 The sense of belonging created by In This Corner of the World	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 War as Entertainment and Contents Tourism in Japan	6. 最初と最後の頁 100-105
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.4324/9781003239970	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Yamamura, Takayoshi	4. 巻 1
2. 論文標題 Travelling Grave of the Fireflies	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 War as Entertainment and Contents Tourism in Japan	6. 最初と最後の頁 106-110
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.4324/9781003239970	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 van der Does, Luli	4. 巻 1
2. 論文標題 Tours of Tokkotai (kamikaze) training bases	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 War as Entertainment and Contents Tourism in Japan	6. 最初と最後の頁 111-116
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.4324/9781003239970	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Sugawa-Shimada, Akiko	4. 巻 1
2. 論文標題 Repatriation and the enka ballad Ganpeki no haha	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 War as Entertainment and Contents Tourism in Japan	6. 最初と最後の頁 117-121
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.4324/9781003239970	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Jang, Kyungjae	4. 巻 1
2. 論文標題 Kantai Collection and entertainmentization of the Second World War	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 War as Entertainment and Contents Tourism in Japan	6. 最初と最後の頁 125-129
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.4324/9781003239970	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Wang, Qiaodan and Seaton, Philip	4. 巻 1
2. 論文標題 The war metaphors underpinning Mizuki Shigeru yokai tourism	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 War as Entertainment and Contents Tourism in Japan	6. 最初と最後の頁 130-134
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.4324/9781003239970	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Jaworowicz-Zimny, Aleksandra and Yamamura, Takayoshi	4. 巻 1
2. 論文標題 Shin Godzilla: Tourism consuming images of JSDF, kaiju characters, and destroyed sites	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 War as Entertainment and Contents Tourism in Japan	6. 最初と最後の頁 135-139
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.4324/9781003239970	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Koarai, Ryo and Yamamura, Takayoshi	4. 巻 1
2. 論文標題 Fantasy wars and their real-life inspirations: Tourism and international conflicts caused by Attack on Titan	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 War as Entertainment and Contents Tourism in Japan	6. 最初と最後の頁 140-144
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.4324/9781003239970	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Yamamura, Takayoshi and Seaton, Philip	4. 巻 1
2. 論文標題 Conclusions: Patterns of war-related (contents) tourism	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 War as Entertainment and Contents Tourism in Japan	6. 最初と最後の頁 145-149
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.4324/9781003239970	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Yamamura, Takayoshi	4. 巻 18 (1)
2. 論文標題 Contents tourism and creative fandom: the formation process of creative fandom and its transnational expansion in a mixed-media age	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Journal of Tourism and Cultural Change	6. 最初と最後の頁 12-26
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1080/14766825.2020.1707461	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Graburn, Nelson and Yamamura, Takayoshi	4. 巻 18 (1)
2. 論文標題 Contents tourism: background, context, and future', Journal of Tourism and Cultural Change	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Journal of Tourism and Cultural Change	6. 最初と最後の頁 1-11
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1080/14766825.2020.1707460	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Luli van der Does	4. 巻 18 (5)
2. 論文標題 Online tourist reviews and accidental conveyors of memories of the atomic bomb	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Journal of Tourism and Cultural Change	6. 最初と最後の頁 514-531
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1080/14766825.2019.1702048	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

〔学会発表〕 計15件 (うち招待講演 1件 / うち国際学会 9件)

1. 発表者名 Yamamura, Takayoshi., Jang, Kyungjae., Kim, Sueun., Koarai, Ryo., Jin, Qian., Wang, Ting.
2. 発表標題 Oral presentation session: Multi-Vocality of Contents Tourism: Between Conflict and Dialogue, Nationalism and Cosmopolitanism
3. 学会等名 2022 American Anthropological Association Annual Meeting (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 山村高淑
2. 発表標題 コンテンツツーリズムの次世代型展開 : コンテンツ製作者 地域コミュニティ ファン の新たな関係性に着目して
3. 学会等名 ソウル大日本研究所国際学術シンポジウム 『2000年以後の日本社会と若者を考える』 (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Jang, Kyungjae
2. 発表標題 Battleships, Girls and Contents Tourism: Multivocality in the game Fleet Collection
3. 学会等名 2022 American Anthropological Association Annual Meeting (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Yamamura, Takayoshi
2. 発表標題 Introduction: Multi-Vocality of Contents Tourism
3. 学会等名 2022 American Anthropological Association Annual Meeting (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Yamamura, Takayoshi
2. 発表標題 Imaginations and Desires of Fandom: Immersion, Conflicts, and Mutual Understanding in Contents Tourism
3. 学会等名 American Anthropological Association (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 山村高淑
2. 発表標題 コンテンツツーリズムのもつ可能性：コンテンツ（共有）とヘリテージ（継承）の観点から
3. 学会等名 大手前大学交流文化研究所シンポジウム（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Yamamura, Takayoshi
2. 発表標題 Voices that Break Borders: Trans-National and Cross- Language Perspectives of Voice Actors as Idols.
3. 学会等名 American Anthropological Association 118th Meeting (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 フィリップ・シートン
2. 発表標題 文学が生み出すコンテンツツウリズム：司馬遼太郎作品の事例
3. 学会等名 昭和文学会 春季大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Philip Seaton
2. 発表標題 War-Related Tourism in Japan: Constructing Sites, Constructing Narratives
3. 学会等名 Travel and Tourism Research Association (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 張慶在
2. 発表標題 軍港都市の日常、過去から未来へ
3. 学会等名 第7回 同時代日本語文学フォーラム (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 張慶在
2. 発表標題 軍港都市の記憶
3. 学会等名 広島韓国学研究会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 van der Does, Luli
2. 発表標題 Peace Tourism and Personal Relevance
3. 学会等名 International Research Conference “Weaving Peace Through Heritage Tourism”. (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 van der Does, Luli
2. 発表標題 ツーリストが体験したい広島
3. 学会等名 ヒロシマ・ピースフォーラム、広島市立大学「広島からの平和学」連携講座第5回
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 van der Does, Luli
2. 発表標題 『消えた町、記憶をたどり』 市民参画型、記憶の継承プロジェクトから
3. 学会等名 「コンテンツツーリズムにおける『戦争』の消費と歴史理解に関する国際比較研究」公開研究会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 van der Does, Luli
2. 発表標題 子どもだった被爆者 生きてきた記憶
3. 学会等名 市民公開講座「次世代への被爆体験継承－誰の視点で語るのか」
4. 発表年 2021年

〔図書〕 計6件

1. 著者名 山村高淑・小新井涼・金千編 / コンテンツツーリズム論演習チーム2022著	4. 発行年 2023年
2. 出版社 北海道大学大学院国際広報メディア・観光学院2022年度後期開講科目 『コンテンツツーリズム論演習』	5. 総ページ数 59
3. 書名 Contents Tourism in Sapporo Vol.2 (日本語版)	

1. 著者名 山村高淑・金千・小新井涼編 / コンテンツツーリズム論演習チーム2022著	4. 発行年 2023年
2. 出版社 北海道大学大学院国際広報メディア・観光学院2022年度後期開講科目 『コンテンツツーリズム論演習』	5. 総ページ数 59
3. 書名 Contents Tourism in Sapporo Vol.2 (中国語版)	

1. 著者名 山村高淑・小新井涼編 / コンテンツツーリズム論演習チーム2021著	4. 発行年 2022年
2. 出版社 北海道大学大学院国際広報メディア・観光学院2021年度後期開講科目 『コンテンツツーリズム論演習』	5. 総ページ数 50
3. 書名 Contents Tourism in Sapporo Vol.1 (日本語版)	

1. 著者名 山村高淑・小新井涼編 / コンテンツツーリズム論演習チーム2021著	4. 発行年 2022年
2. 出版社 北海道大学大学院国際広報メディア・観光学院2021年度後期開講科目 『コンテンツツーリズム論演習』	5. 総ページ数 46
3. 書名 Contents Tourism in Sapporo Vol.1 (中国語版)	

1. 著者名 Yamamura, Takayoshi and Seaton, Philip	4. 発行年 2022年
2. 出版社 Routledge	5. 総ページ数 157
3. 書名 War as Entertainment and Contents Tourism in Japan	

1. 著者名 森富茂雄作・ヒロシマ・フィールドワーク実行委員会編集(日本語版) / Luli van der Does (本文英訳と三種地図作成)	4. 発行年 2020年
2. 出版社 ヒロシマ・フィールドワーク実行委員会	5. 総ページ数 119
3. 書名 Disappeared Towns, Tracing Memories: Drawings and Testimonies by Shigeo Moritomi	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	P・A SEATON (Seaton Philip) (70400025)	東京外国語大学・大学院国際日本学研究院・教授 (12603)	
研究分担者	須川 亜紀子 (Sugawa-Shimada Akiko) (90408980)	横浜国立大学・大学院都市イノベーション研究院・教授 (12701)	

6. 研究組織 (つづき)

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	張 慶在 (Jang Kyungjae) (50782140)	広島大学・人間社会科学研究科(総)・准教授 (15401)	
研究分担者	藤木 庸介 (Fujiki Yosuke) (70314557)	滋賀県立大学・人間文化学部・教授 (24201)	
研究分担者	v a n d e r D o e s L u l i (Van der Does Luli) (00839087)	広島大学・平和センター・准教授 (15401)	

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	金 受恩 (Kim Sueun)		
研究協力者	J a w o r o w i c z - Z i m n y A l e k s a n d r a (Jaworowicz-Zimny Aleksandra)		
研究協力者	小新井 涼 (Koarai Ryo)		
研究協力者	王 喬丹 (Wang Qiaodan)		

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	中井 均 (Nakai Hitoshi)		
研究協力者	張 天新 (Zhang Tianxin)		
研究協力者	金 千 (Jin Qian)		
研究協力者	王 ティン (Wang Ting)		

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計4件

国際研究集会 Online Summer Programme in Japanese Cultural Studies "Tourism and Heritage in Post-lockdown Japan" by Sainsbury Institute for the Study of Japanese Arts and Cultures.	開催年 2022年～2022年
国際研究集会 International Meeting on Contents Tourism Research Updates 1: 第1回国際コンテンツツーリズム研究会.	開催年 2021年～2021年
国際研究集会 International Meeting on Contents Tourism Research Updates 2: 第2回国際コンテンツツーリズム研究会	開催年 2022年～2022年
国際研究集会 対馬観光の現在：コンテンツが創出する国境のイメージと異文化対話	開催年 2022年～2022年

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関		
韓国	韓国外語大学コリアノフォン研究センター		
中国	北京大学		

共同研究相手国	相手方研究機関			
ポーランド	Nicolaus Copernicus University			